

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	4.4	4.9 進捗度 ・統合型医療情報データベースの活用 125% ・ヘルスケア分野の製品・サービスの増加 100% ・ヘルスケア産業の振興 93.7% ・ヘルスケア分野企業(第2創業含む)及び研究機関の立地件数(累計) 101%	3.8 規制の特例等 ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 等 地域独自の取組 ・医療情報利活用推進事業費補助金 ・みえ経営向上支援資金 等	4.4	・医療情報データベース活用とMieLIPを主体としたヘルスケア製品・サービスの創出が根付いている点が評価できる。 ・データベースの着実の蓄積の結果とも見なすことが可能な共同研究締結件数の増加を評価したい。県行政における支援体制の強化についても進展が見られた点も今後の発展を期待させるものである。 ・調整費を活用した財政支援がヘルスケア分野の製品・サービス開発につながっている点を高く評価したい。 ・医療情報データベース活用とMieLIPの活動の相互作用があるかどうかについて、データベース活用している企業のうち県内企業の割合を報告してはどうか。 ・MieLipの「製品・サービスの増加」「製品・サービスの創出に伴う新規雇用創出数」等については、具体例を挙げてもらえると数値目標の妥当性が確認できる。 ・統合型医療情報データベースの取り組みについては、三重県だけのデータでは限界があると思われ、現状では世界のビックデータと競合するためにまだ課題があると思われる。今後の規模拡大の可能性および海外との競争力強化を視野に入れた戦略が展開されることを期待する。 ・統合型医療情報データベースの活用として、医薬品や医療機器の研究開発に向けた活用にとどまらず、災害時における医療情報喪失防止のためのバックアップや医療機関の連携に向けた活用にも期待したい。